

鹿児島県スポーツ・コンベンションセンター設計業務

公募型プロポーザル 審査報告書

令和8年3月

鹿児島県スポーツ・コンベンションセンター設計業務

公募型プロポーザル審査会

目 次

1	選定結果	1
2	プロポーザルの経過	1
3	設計審査会の構成	2
4	設計審査会の開催経過	2
5	審査結果の詳細	3
6	審査の講評	6

1 選定結果

鹿児島県スポーツ・コンベンションセンター設計業務公募型プロポーザル審査会（以下、「設計審査会」という。）において、同センター設計業務のプロポーザルについて審査し、次のとおり、最優秀提案候補者と次点提案候補者を選定した。

(1) 最優秀提案候補者

受付番号 003 梓設計・SUEP・東条設計共同企業体

(2) 次点提案候補者

受付番号 009 坂茂建築設計・松田平田設計・永園設計共同企業体

その後、県において、設計審査会における選定結果等を踏まえ、「梓設計・SUEP・東条設計共同企業体」が最優秀提案者に、「坂茂建築設計・松田平田設計・永園設計共同企業体」が次点提案者に決定された。

2 プロポーザルの経過

① 令和7年10月7日	公告、本プロポーザル説明書等の交付開始
② 令和7年10月8日～15日	第1回質問の受付（参加表明書に関する内容）
③ 令和7年10月8日～22日	第1回質問の受付（参加表明書に関する内容以外）
④ 令和7年10月24日	第1回質問の回答（参加表明書に関する内容）
⑤ 令和7年10月30日	参加表明書の提出
⑥ 令和7年10月31日	第1回質問の回答（参加表明書に関する内容以外）
⑦ 令和7年11月13日～19日	一次提案書の提出
⑧ 令和7年12月16日	一次審査
⑨ 令和7年12月18日	一次提案書の審査結果通知
⑩ 令和7年12月18日～22日	第2回質問の受付
⑪ 令和7年12月26日	第2回質問の回答
⑫ 令和8年1月26日～30日	二次提案書の提出
⑬ 令和8年2月14日	二次審査（公開プレゼンテーション・ヒアリング）
⑭ 令和8年2月15日	二次審査（審査会）
⑮ 令和8年2月18日	最優秀提案者の決定通知

3 設計審査会の構成

(敬称略, 委員は五十音順)

分野	氏名	分野/所属機関(団体)名
委員長	古谷 誠章	建築/公益社団法人 日本建築士会連合会 会長
委員	岩元 幸成	スポーツ/公益財団法人 鹿児島県スポーツ協会 専務理事兼事務局長
委員	小島 規美江	コンベンション・観光/MICE makes LINK 主宰
委員	酒匂 一成	防災/鹿児島大学地域防災教育研究センター センター長
委員	柴田 晃宏	建築/鹿児島大学大学院理工学研究科 教授
委員	早部 安弘	建築/早稲田大学理工学術院 教授
委員	藤本 英子	都市計画/京都市立芸術大学 名誉教授
委員	前田 究	スポーツ/鹿児島県パラスポーツ協会 事務局長

4 設計審査会の開催経過

(1) 第1回設計審査会

日時: 令和7年9月30日(火) 午前9時~正午

場所: 鹿児島県庁 7階会議室

委員: 8名出席(内, 4名WEB参加)

概要: 委員長が互選され, プロポーザル説明書など設計公募資料について審議した。

(2) 第2回設計審査会

日時: 令和7年12月16日(火) 午前9時~正午

場所: 鹿児島県庁 7階会議室

委員: 8名出席

概要: 一次審査を行い, 一次提案書の提出者9者のうち, 5者を一次審査通過候補者として選定した。

(3) 第3回設計審査会

日時: 令和8年2月15日(日) 午前10時~正午

場所: マリンパレスかごしま 4階カトレア

委員: 8名出席

概要: 2月14日(土)に一次審査通過者5者によるプレゼンテーション及びヒアリングを実施。この結果等も踏まえ, 二次審査を行い, 最優秀提案候補者と次点提案候補者を選定した。

5 審査結果の詳細

(1) 一次審査

ア 評価基準

一次提案書について、プロポーザル説明書の評価要領（以下、「評価要領」という。）に基づき評価を行った。

プロポーザル説明書 評価要領【抜粋】

(1) 実施方針書【60点】

業務の理解度、提案の的確性、具体性、独創性、実現可能性の観点から総合的に評価する。

評価	内容	評価点
A	優れている	配点×1.00
B	やや優れている	配点×0.75
C	通常	配点×0.50
D	やや劣っている	配点×0.25
E	劣っている	配点×0.00

(2) プロポーザル参加者の実績【15点】

(3) 配置予定技術者の実績【10点】

(4) 配置予定技術者の資格【5点】

(5) 設計業務の受賞歴【10点】

イ 審査結果

受付番号 001, 003, 005, 006, 009 の 5 者を一次審査通過候補者として選定し、その結果を県に報告した。その後、県において、一次審査通過候補者のとおり、一次審査通過者が決定された。

受付番号	評価点	一次審査通過者名
001	64.0	オンデザイン・工藤浩平建築設計事務所設計共同企業体
002	59.1	—
003	89.3	梓設計・SUEP・東条設計共同企業体
004	60.5	—
005	62.5	佐藤総合計画・三反田設計共同企業体
006	64.4	日建・下舞設計共同企業体
007	55.4	—
008	50.9	—
009	83.3	坂茂建築設計・松田平田設計・永園設計共同企業体

(2) 二次審査

ア 評価基準

一次審査通過者5者から提出された二次提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施した上で、評価要領に基づき評価した。

プロポーザル説明書 評価要領【抜粋】

技術提案書【100点】

テーマに対する理解度，提案の的確性，具体性，独創性，実現可能性及びプロポーザル参加者の積極性の観点から総合的に評価する。

なお，一次審査における評価結果は考慮しない。

評価	内容	評価点
A	特に優れている	各項目の配点×1.00
B	優れている	各項目の配点×0.75
C	やや優れている	各項目の配点×0.50
D	通常	各項目の配点×0.25
E	やや劣っている	各項目の配点×0.00

イ 審査結果

最優秀提案候補者及び次点提案候補者を選定し，その結果を県に報告した。その後，県において，最優秀提案候補者及び次点提案候補者のとおり，最優秀提案者及び次点提案者が決定された。

<最優秀提案者>

受付番号 003 梓設計・SUEP・東条設計共同企業体

<次点提案者>

受付番号 009 坂茂建築設計・松田平田設計・永園設計共同企業体

ウ 採点結果

評価項目		配点	受付番号				
			001	003	005	006	009
1	県民の健康増進とスポーツの振興に加え、イベントにも有効活用できる施設	25	13.3	21.9	9.4	11.7	18.0
2	桜島の景観を望む本港区エリアにふさわしいデザインを備えた鹿児島県のシンボリック施設	20	8.8	15.6	9.4	11.3	16.3
3	インバウンドを含めた観光振興や賑わいの創出、中心市街地の活性化	20	10.0	15.0	8.8	8.8	14.4
4	障がい者や高齢者も安全で利用しやすいユニバーサルデザインの実現	15	7.5	12.7	7.5	7.0	9.8
5	構造性能・環境性能の合理化、災害対応機能の分散・強化	20	13.8	15.6	11.9	10.0	12.5
合 計		100	53.4	80.8	47.0	48.8	71.0
選定結果				最優秀 提案者			次点 提案者

6 審査の講評

設計審査会において、一次審査を通過した5者から提出された提案について、5つの評価項目に沿って議論を行い、5者5様の魅力と可能性を持っていると評価した。

その上で、採点の結果、評価点の最も高かった梓設計・SUEP・東条設計共同企業体を最優秀提案候補者に選定し、次に高かった坂茂建築設計・松田平田設計・永園設計共同企業体を次点提案候補者に選定した。各案に対する講評は以下のとおりである。

<最優秀提案者>

「受付番号 003 梓設計・SUEP・東条設計共同企業体」

コンセプト：おおらかな屋根がみんなを受け入れ、いつも賑わう、まちの屋内広場
～ウォーターフロントと一体となり、新たな体験価値を生み続ける場～

【提案の概要】

桜島の景観との調和を考え、山の稜線と呼応する吊り構造の屋根。

マイアミ通りの延長線上に、市街地の賑わいを受け入れる広場（まちの広場）を設ける計画。

主要諸室を1階に配置し、中央の「まちの広場」をフレキシブルに活用することで、日常利用、スポーツ、コンサート、コンベンション等に使いやすい計画。

【講評】

次の点が高く評価され、評価点の合計が最も高かった。

テーマ1「県民の健康増進とスポーツの振興に加え、イベントにも有効活用できる施設」については、諸室をフラットに配置することで、メインアリーナとサブアリーナの連携した利用を可能とするなど、主催者・運営者にとって使いやすい施設とするための工夫がなされている点等が評価された。

テーマ2「桜島の景観を望む本港区エリアにふさわしいデザインを備えた鹿児島のシンボリック施設」については、のびやかで魅力的な外観デザインであり鹿児島のシンボリックな建物となることが期待できる点や、吊り屋根の工夫によって桜島の眺望への配慮がなされている点等が評価された。

一方で、屋根形状の主張が強いので、桜島との調和に一層留意する必要があるとの意見もあった。

テーマ3「インバウンドを含めた観光振興や賑わいの創出、中心市街地の活性化」については、全方位からのアプローチが可能な配置で、また、提案の中で唯一、建物の正面が中心市街地側に開かれており、県民や観光客が気軽に立ち寄れるための工夫がなされている点等が評価された。

一方で、どのように賑わいを創出するのか更に工夫する必要があるとの意見もあった。

テーマ4「障がい者や高齢者も安全で利用しやすいユニバーサルデザインの実現」については、車椅子利用者や子ども、高齢者などの利用を想定し、全ての施設が水平につながるほか、東側と西側に緩やかなスロープが配置される提案となっており、誰もが使いやすいよう工夫されている点等が評価された。

テーマ5「構造性能・環境性能の合理化、災害対応機能の分散・強化」については、諸室をフラットに配置することにより共用部面積を効率化することや、吊り構造により屋根を軽量化することで、建設費を抑制する提案となっている点等が評価された。

また、火山灰や雨水を効率的に排出する屋根形状や火山灰フィルターの設置が提案されており、降灰対策や雨水対策が評価された。

<次点提案者>

「受付番号 009 坂茂建築設計・松田平田設計・永園設計共同企業体」

コンセプト：桜島と対話する「大地の丘（テラス）」

周辺をつなぐ屋上公園となる分散配置型低層スポーツ・コンベンションセンター

【提案の概要】

メインアリーナ、サブアリーナなどの主要な機能を敷地全体に分散配置し、さらに半地下とする。それによって出る掘削土で屋根以外を緩やかな起伏のあるランドスケープで覆い、敷地全体を開放的な屋上公園とする計画。

ロビー空間（メイン・サブアリーナや武道場の間）は、日常的な通り抜けのほか、スポーツ情報・観光情報の発信や、展示、ポップアップストアなどの催しにも利用できる計画。

【講評】

最高点を付けた委員の数は最優秀提案候補者に最高点を付けた委員の数と互角であり、評価点の合計も2番目に高かった。

また、建物を半地下構造にして高さを抑え敢えて目立たせない提案について、桜島そのものをシンボルと捉え、建物及び周辺の風景（ランドスケープ）と桜島との調和が考えられている点や、世界中での災害救援活動の実績を踏まえた避難所機能の提案である点等が評価された。

一方で、半地下構造とすることに伴う浸水対策について、万一の際の防潮板の故障など、対策の実現性を懸念する意見や、芝生が多いことで施設を避難所として使用する際に車いす利用者が利用しづらくなることを懸念する意見もあった。

以下はプロポーザル参加者の受付番号順である。

「受付番号 001 オンデザイン・工藤浩平建築設計事務所設計共同企業体」

コンセプト：風景とまちをつなぐ「ジャイアントアーケード」

— まちにひらかれた新しいアリーナ —

【提案の概要】

施設そのものを「まちのあらたなアーケード」として位置づけ、施設全体をゆるやかにまとめる「ジャイアントアーケード」と、施設内の活動とまちのにぎわいをつなぐ「スモールアーケード」という2つのアーケード空間を設け、地域との連携を高める計画。

【講評】

地元のイベントやまちの人々との関係性を重視し、中心市街地との連続性に配慮している点や、ユニバーサルデザインの実現に向けたワークショップを行う提案となっている点等が評価された。

一方で、大きな屋根架構がメインアリーナ以外も含めた施設全体をつなぐことによる圧迫感や景観への影響、コストを懸念する意見もあった。

「受付番号 005 佐藤総合計画・三反田設計共同企業体」

コンセプト：全てが桜島へ向かう

— 桜島とまちを『結ぶ』ゲートとしてのアリーナ —

【提案の概要】

天文館から錦江湾へ抜ける都市軸と、桜島へと視線が導かれる景観軸が重なり合う結節点に「多角形」のツインアリーナを配置し、回遊性と景観性を持った公共拠点を形成する計画。「多角形」とすることにより、センターコートが見やすい客席と桜島へ向いた眺望の良い客席を多く確保する計画。

メインアリーナとサブアリーナを結ぶロビーは、セキュリティの切替が容易で、両アリーナの連携、分割に柔軟に対応できる計画。

【講評】

建物をコンパクトにまとめ、ロビーを柔軟に活用できるようにするなど運用のしやすさに配慮している点や、火山灰による汚れを抑えるため外壁を逆錘型とし、室外機に屋根をかけるなど、降灰対策を工夫している点等が評価された。

一方、諸室形状や動線が複雑であり使いにくさを懸念する意見や、ツインアリーナの量塊感や高さを懸念する意見、搬入ヤードが中心市街地側に面しており、桜島や周辺の街並みとの調和を懸念する意見もあった。

「受付番号 006 日建・下舞設計共同企業体」
コンセプト：「人」「街」「桜島」，みんなをつなぐ，未来をはぐくむスポーツひろば

【提案の概要】

県民や観光客が気軽に立ち寄れる開かれた施設とする計画。

メインアリーナやサブアリーナ等を近接させて配置し，一体利用時の連携を高める計画。

桜島を眺める複数のテラスや大階段を設置し，ウォーターフロントパークと連携して，賑わいと憩いの場を作る計画。

【講評】

建物をコンパクトにまとめ，メインアリーナ・サブアリーナ・武道場の連携が取りやすい点や，地元素材を積極的に活用している点，一部で足場を設置しない工法を採用するなど工夫している点等が評価された。

一方で，空間にゆとりがなく，諸施設間の動線が狭隘であることを懸念する意見や，ユニバーサルデザイン・防災対応の実現性を懸念する意見，中心市街地側に開放感が乏しいとの意見もあった。

令和8年3月
鹿児島県スポーツ・コンベンションセンター設計業務
公募型プロポーザル審査会